

むらの底力 鍛冶職人1 (商家：鍛冶屋)

下総鋏 (しもうさばさみ)

明治初期に厚手の服地（羅紗）と一緒に輸入された裁断用の鋏（ラシャ切り鋏）は、大きくて重く日本人には扱いにくかったため、軽量化も含めて、扱いやすく改良したものが下総鋏です。下総鋏の技術は、手作りの良さと切れ味や耐久力で高い評価を受けています。



鋏作りの実演

ラシャ切り鋏



北島 和男氏（松戸市）

父平三郎を継ぐ二代目鋏鍛冶で、全て手作業の叩き出し（総火造り）の製法で鋏を作る。